

月刊ウィーン

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
創刊平成元年 創刊 28 年目
創刊 1989 年 Nr. 326

GEKKAN-WIEN 2016年9月号

ペーテル・パウル・ルーベンス (一五七七年ジューゲン生〜一六四〇年アントウエルベン没)

『果物籠を持つサテュロスと召使いの娘』一六五年頃

個人蔵

ウィーン造形美術アカデミー絵画館 Gemäldegalerie der Akademie der bildenden Künste Wien に二〇月末まで展示

RUBENS, SNYDERS, HOOGSTRATEN, Fünf hochkarätige Werke aus den Fürstlichen Sammlungen LICHTENSTEIN zu Gast in der Gemäldegalerie

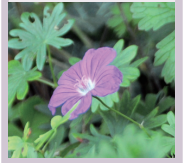


Peter Paul Rubens, Satyr und Mädchen mit Früchtekorb, um 1615, Öl auf Leinwand, 113 x 71 cm, Privatsammlung Dauerleihgabe an LICHTENSTEIN, The Princely Collections, Vaduz-Vienna

© Privatsammlung Dauerleihgabe an LICHTENSTEIN, The Princely Collections, Vaduz-Vienna

Rubens Peter Paul Satyr und Mädchen mit Früchtekorb um 1615 Öl auf Leinwand G6 Satyr and Maid with Fruit Basket Satyr e fanciulla con cesto di frutta Satyre et jeune fille au panier de fruits (c) LICHTENSTEIN, The Princely Collections, Vaduz-Vienna

杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 59



私事で恐縮であるが、七月二日付で東京工業大学のグローバル原子力安全・セキュリティ・ナジエント教育院に採用された。本教育院は、文部科学省の支援により「人類の生存基盤を脅かす核拡散、核テロ、大規模な原子力災害や緊急被ばく問題等のグローバルな原子力危機」の分野において国際的リーダーとして活躍する人材を育成することを目的として、平成三年度より修士・博士二貫学位プログラムを実施している。このプログラムは、深い専門性もとより、幅広い社会性や国際性、さらに豊かな人間性を養い、時代の流れを俯瞰しながら、「高い志を持って、人々のため、社会のため、世界のために貢献するリーダーを育成する」ことを教育目標として、原子力を専門とする学生の中から厳選された学生が将来のグローバル・トップリーダーを目指す。全寮制の下で勉学に励んでいる。齊藤止樹特命教授が教育院長を務めている。

本プログラムの一環として国内外で研修・実習を実施しているが、七月九〜二三日にかけて、福井県敦賀市の日本原子力発電(株)敦賀総合研修センターにおいて、原子炉過酷事故シミュレーション実習を実施した。参加学生は金川君、アニーさん、ワイリン出身、アリーンさん(南アフリカ出身)の三名。四日間にわたり講義・シミュレータを用いた実習、施設見学等を行った。筆者は過酷事故(シビアアクシデント)の専門家として学生を指導するとともに、日本原子力発電の講師等の日本語の説明を、名の外国人学生のためポイントを英語で伝えた。宿泊所を含めた研修施設は、竣工四年弱と新しく充実しており、特にシミュレータは最新式であり、また加圧式と沸騰式の種類の軽水炉を見学することができ、学生にとっては有益な実体験をすることができたと思う。

さて、今月のウィーンと京都の対比では両市の踊りについて述べてみたい。ウィーンの踊りと言えば、舞踏会(バル)が良く知られている。一月か二月の冬のシーズンに王宮や市庁舎を歴史的な建物を中心に年間四五〇以上の舞踏会が開かれる。主催は狩猟協会、菓製造組合、医師会、法曹界、ウィーンフィル、国際原子力機関(IAEA)など様々であり、チケットを買えば誰でも参加できる。最も有名なのは、大統領の主催により世界の著名人を各約七千人が訪れるウィーン最大のオペラ座舞踏会である。この舞踏会で、二七、二八歳に初めて社交界にデビューする男女のペアは、デビュタントと呼ばれ、昔は上流階級出身であったが、近年は日本からの旅行者が即席のペアも参加している。

一方、京都では、お盆の頃には各町内会の主催により、盆踊りがそこかしこで開催され、老若男女が参加する。花街の一つ上七軒での盆お踊りでは、舞妓さんも参加して華やかである。東寺、西本願寺など著名な寺院でも盆踊りが開催される。涌泉寺では、五山送り火の日に、妙法の送り火の山のふもとで行われ、日本最古の盆踊りといわれている。「南無妙法蓮華経」のお題目が男女の掛け合いでくり返し唱えられるなか、踊り手たちは輪になり、太鼓の音に合わせて、扇を返しながら身体を屈伸して踊る。京都の盆踊りの曲目は江州音頭が多いが、上七軒では西陣音頭、修学院では古くから伝わる紅葉音頭で踊る。両市の舞踏会と盆踊りは多くは歴史的な場所で行われ、市民参加型であるのが似ている。

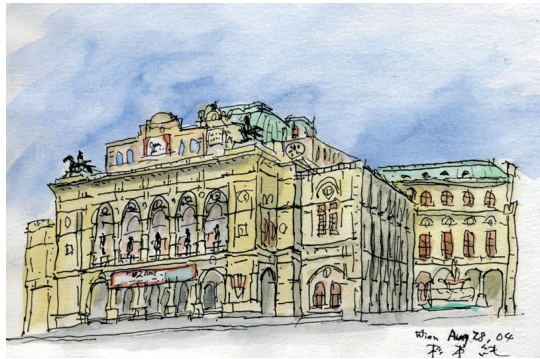
余談であるが、筆者がウィーン赴任時の秘書は、頼まれてデビュタントを三年連続務めたという。筆者もIAEA主催のバルに参加したことがある。着物を含め民族衣装が認められており、世界各国の民族衣装を見ることができた。京都では近くの銅駝美術工芸高等学校校庭での町内会主催の盆踊りを見たことがある。両市の踊りを紹介できた幸運に感謝しつつ、オペラ座のスケッチを掲載させていた。



■杉本純 東工大特任教授 前京大教授
元原子力機構ウィーン事務所長



http://www.dojo.itech.ac.jp



Wien, Aug 28, 04
杉本純